



日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

www.alpajapan.org

Date 2011.8.29

No. 35 - 09

発行: 日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan

HUPER 委員会

〒144-0043

東京都大田区羽田5-11-4

フェニックスビル

TEL.03-5705-2770

FAX.03-5705-3274

E-mail:office30@alpajapan.org

ICAOとIATA、IFALPAが共同して FRMS導入に向け、国と航空事業者に対する

「FRMS 実行手引書」 (FRMS Implementation Guide) を公式発表

2011年7月14日モントリオール発

2011年7月14日、IFALPAとICAO、IATAは共同して、航空経営者と管理当局がFRMSを導入するための手引書を公式発表しました。

この手引書は、従来の年間飛行時間や飛行勤務時間等の時間制限という、乗員の疲労管理に関する伝統的な方式を更に進めて、勤務時間帯や着陸回数、時差に伴うサーカディアン・リズムの影響、休養時間・休養施設の品質なども含め、乗員の疲労に係わる全ての条件を科学的な方法で再評価し、それをもとに乗員が運航中に適正なパフォーマンスを発揮できるための条件を定めて行くプロセスが定められています。「FRMS 実行手引書」は管理当局である国用と事業者用の二つがあり、それぞれICAOのSARPs (Standard and Recommended Procedures) に沿って共通の概念で定められており、今後は、この手引書をもとに各国、各事業者が乗員の疲労管理制度作りを進めていくことになります。

日乗連としても、この手引書に沿った実行プロセスが確実に行われていくのか継続的に点検していくとともに、科学的な調査を行わせるための取り組みが求められます。

「FRMS 実行手引書」の内容については、今後、皆さんに紹介していきませんが、今回は7月14日に Press Release された IFALPA News を紹介します。

FRMS (Fatigue Risk Management System) = 疲労リスクマネジメントシステム

疲労に起因する事故やインシデントが近年増加していることを受け (※)、ICAOがAnnex 6 (疲労管理規則) を改定し、FRMSに関するガイダンスを規則に盛り込みました。経緯の詳細は日乗連ニュース No. 33-23、24 を参照して下さい。また、疲労に関する考え方は2008年から2009年にかけて発行した「疲労のリスクと疲労管理を考えるシリーズ」のニュースも合わせて参照して下さい。過去のニュースは日乗連のHPから参照できます。※2010年発行のニュース No. 33-44、45、50、51 を参照



IATA と ICAO、IFALPA が共同して

航空事業者に向けた「FRMS 実行手引書」を公式発表

2011年7月14日、モントリオール発

IFALPA と IATA、ICAO は、2011年7月14日、民間航空の経営者のための「FRMS 実行手引書」を公開、発表しました。

FRMS は科学的原則に基づいた手法であり、航空経営者が、この事業に特有な、疲労関連のリスク管理を可能とするものです。これは伝統的、規範的な飛行時間・勤務時間基準に代わりうる、別の方法を提供するものです。科学の発達は、疲労の緩和方法のみならず、疲労と能力の相関関係についても、より一層高い理解をもたらしました。疲労が事故原因の一因として次第に取り沙汰されるようになってきている昨今、この「FRMS 実行手引書」には、飛行の安全を高めるため、これらの進歩が活かされています。

ICAO のナンシー・グラハム事務局理事は、“航空において、安全は第一の優先課題であり、私達は乗客と乗員の生命を守る責任を分かち合っています。「FRMS 手引書」を開発する私達の共同の取り組みは、一般的な解決法を見つけて実践する、これに専念すれば達成できるということを示す最高のお手本です”と述べました。

IATA、ICAO、IFALPA は、規制当局に対する具体的な手引書と一致する、経営者のための「FRMS 実行手引書」の開発に共同で取り組みました。この手引書には、効果的な疲労リスク管理プログラムを実践する手法と枠組みに関する、有益な見識が組み込まれています。

IATA のギュンター・マシニグ上席副会長は、“FRMS は、今日の運航実態と蓄積された経験を考慮して、安全を、科学的に、より一層高めるものです。この実行ガイドは 最適なクルー・パフォーマンスをもって安全運航を確保するという観点で、規制当局とパイロット、そして航空業界を同一面に位置付けています”と述べました。

IFALPA 会長のドン・ワイコフ 機長は、“このドキュメントの価値は、パイロットと規制当局、経営者の全てが、複雑な疲労の問題に対する共通な研究方法に合意したところにあります。私はこの重要な問題について、航空業界のパートナーがともに進歩的で生産的な関係のまさに始まりとして、熱烈に支持しています”と述べ言葉を結びました。

この連携を支援し、そして、FRMS の更なる理解と実践を促進するために、IATA、ICAO、IFALPA は、規制当局、経営者、パイロットそれぞれの視点から、FRMS 要件に関する背景の概要について、FRMS 情報を世界中に提供するワークショップの共通の部隊となります。

これに合わせて、ICAO の理事会は先ごろ、規制当局による監督と、経営者による FRMS の実践、この両方を一貫性のある確実なものとするために、FRMS の国際基準を採択しました。